

第3学年外国語活動 学習指導案

指導者 小田倉 慧
R 6 研修センター長期研修

1 「話すこと[発表]」の目標

イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

2 単元名 Unit5 What do you like? (Let's Try! I 文部科学省)

3 単元を通した「話すこと[発表]」における目標及び評価規準

(1) 目標

異動した先生に成長した姿を伝えるために、身の回りのものの言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、自分が好きなものについて積極的に話そうとしている。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身の回りのものや自分の好きなものについて、What do you like?, I like～.などを用いて、話すことに慣れ親しんでいる。	自分の好きなものや好きでないものについて相手に伝わるように工夫しながら、色や食べ物、スポーツ、野菜、果物について話している。	自分の好きなものや好きでないものについて相手に伝わるように工夫しながら、色や食べ物、スポーツ、野菜、果物について話そうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、何が好きかを尋ねたり答えたりする活動を通して、What do you like?やI like～.などの表現に慣れ親しむ単元である。また、児童がこれまでに学習した挨拶や自分の名前の言い方、好き嫌いについての語彙や表現を用いて、自分自身について表現する機会を増やすことができる単元である。これらの活動を通して、児童が「話すこと [発表]」の中で、積極的に自分自身について外国語を使って伝えようとするようになっていくことができるようになっている。このことから、本単元はこれまでに慣れ親しんだ知識・技能を活用し、児童の思考力、判断力、表現力等を育てるとともに、相手を意識しながら主体的に学習に取り組む態度を養うのに適した単元であると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童は、友達とのやり取りを楽しみながら外国語活動に取り組んでいる。しかし、人前で発表をすることに不安を感じている児童も多い。外国語におけるコミュニケーション能力の素地に関する意識調査(令和6年*月*日実施、第3学年*組*人)では、「外国語を学習していく中で、世界には様々な言葉や食べ物、行事や挨拶があることに気付くことができましたか。」の項目には*人、「歌を歌ったりチャンツをしたりすることで日本語にはないリズムを感じることができましたか。」の項目には*人が「できた」と回答した。一方で、「外国語を使って、自信をもって積極的に友達や先生に自分の考えや気持ちを伝えることができましたか。」という項目には「できた」と回答した児童は*人とどまった。このことから、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度に課題があり、また話すことにおいて、その楽しさや意義を十分に実感し、安心して活動に取り組むことができていない児童が多いことが判明した。

(3) 指導観

本単元では、慣れ親しんできた表現を用いて、色や食べ物、スポーツ、野菜、果物の中で何が好きなのかを自己紹介するパフォーマンス活動を単元末に設定する。そこで、児童が自信をもって「話すこと [発表]」に取り組むことができるように、「葵小型ステーション・ローテーション」として、①いきいきステーション、②にこにこステーション、③わくわくステーションの三つを組み合わせた学習形態を設定する。①いきいきステーションは、ICT端末を活用して児童の発表を撮影し、

記録した動画データを児童自身が振り返ったり、自分の必要に応じて発表練習をしたりできる個性化された学習形態を指す。これは、児童個人が改善点を見付けたり、見通しをもちながら繰り返し練習したりすることで安心して発表に取り組めると感じられることを目指す。②にこにこステーションは、児童同士がお互いの発表に対してアドバイスをしたり、よいところを伝え合ったりする協働的な学習形態を指す。これは、他者の視点から改善点に気付いたり、認め合ったりすることで協力的に英語学習に取り組む態度を養うことを目指す。③わくわくステーションは、全体発表に向けてのスモールステップの場とし、ALTに向けての模擬発表に対して、ALTから直接アドバイスや励ましを受ける、個別化された学習形態を指す。これは、経験を積み、小さな成功体験を重ねることで児童がもっとできるようになりたいと感じられることを目指す。このように、「葵小型ステーション・ローテーション」を用いた内発的動機付けを高める学びを通して、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していきたい。

5 単元の指導計画（6時間扱い）（●：指導に生かす評価、○：記録に残す評価）

時間	学習内容・活動 (■：ねらい、丸数字：言語活動、※：評価方法)	知	思	態	備考
1	■異動した先生に成長した姿を伝えるための見通しをもち、身の回りのものの言い方や“What do you like?”、“I like～.”など何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ①【Let's chant】“What do you like?” ②【Let's play】おはじきゲーム ③【Let's listen】 ・登場人物が好きなものを選んで線で結ぶ。 ④【Activity 1】 ・“What do you like?”を使って好きなことを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ※ 観察、振り返りシート	●		●	・めあてを確認させ、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現を知ろうとする意欲を高める。 ・児童の理解を促すために、写真やジェスチャーを用いる。
2	■相手に伝わるようにジェスチャーを用いながら、何が好きかを尋ねたり答えたりする。 ①【Let's chant】“What do you like?” ②【Let's watch and think】 ・登場人物の好きなものを聞き取る。 ③ Teacher Talk 自己紹介 ④【Activity 2】 ・友達に“What do you like?”と尋ね、p.21のワークシートに聞き取った内容をメモする。 ・友達や先生に伝わるようにジェスチャーを用いながら、友達に好きなものを答えたりする。 ⑤ 自己紹介（準備） ・慣れ親しんだ表現や語彙を用いて、自己紹介文を考える。 ・ICT端末に発表する様子を動画で記録する。 ※ 観察、ワークシート、振り返りシート			●	・担任教諭とALTのモデル対話を聞き、活動の見通しをもたせる。 ・児童間でやり取りをする中で、間違いや困っている状況を見取り中間指導を行う。

3 本時 (1)	■異動した先生に成長した姿を伝えるための発表に向けて、三つの学習形態を移動しながら発表練習をする。 ① Small Talk “What food do you like?” ・慣れ親しんできた表現や語彙を使って担任教諭と会話をする。 ② Teacher Talk 自己紹介 ・担任教諭とALTのモデルを見て、良い点や必要な表現等に気付く。 ③ 自己紹介（練習） ・三つの学習形態を移動しながら発表練習をする。 ・いきいきステーションでは、ICT端末に記録した動画データを振り返ったり、必要に応じて発表練習をしたりする。 ・にこにこステーションでは、お互いの発表に対してアドバイスをしたり、称賛し合ったりする。 ・わくわくステーションでは、担任教諭とALTの前で模擬発表をする。 ※ 観察、ワークシート、振り返りシート		●	●	・グッドモデルとバッドモデルを提示し、違いに気付かせる。 ・事前にグループを編成する。 ・児童自身や児童同士で学習を進めることができるように、留意点を記載したチェックリストカードを用意する。 ・模擬発表に対して、励ましや助言をする。
4	■異動した先生に成長した姿を伝えるための発表に向けて、前時の発表練習で気付いた点の改善に取り組む。 ① Small Talk “What color do you like?” ② 【Let's chant】 “What do you like?” ③ 自己紹介（練習） ・改善すべき点に気を付けながら繰り返し発表練習に取り組む。 ※ 観察、振り返りシート		●	●	・前時の発表練習で気付いた児童自身の改善点について助言をする。
5 本時 (2)	■異動した先生に成長した姿を伝えるための発表に向けて、積極的にコミュニケーションを図っている。 ① Small Talk “What sport do you like?” ・慣れ親しんできた表現や語彙を使って担任教諭と会話をする。 ② 自己紹介（練習） ・三つの異なる学習形態を移動しながら発表練習をする。 ・いきいきステーションでは、ICT端末に記録した動画データを振り返ったり、必要に応じて発表練習をしたりする。 ・にこにこステーションでは、発表に対してアドバイスをしたり、称賛し合ったりする。 ・わくわくステーションでは、担任教諭とALTの前で模擬発表をする。 ※ 観察、ワークシート、振り返りシート		●	●	・児童はチェックリストカードを活用しながら、ステーションを自由に行き来する。 ・全児童を見取るために、計画を立てる。 ・児童が頑張ったことを互いに認め称賛し、次時の活動に繋げる。

6	■ クラスの前で相手に伝わるように工夫しながら自己紹介をする。 ① 【Let's chant】“What do you like?” ② 自己紹介（発表） ア 発表練習をする。 ・ ペアで発表練習をする。 ・ ジェスチャーやアイコンタクトなどを工夫する。 イ 全体発表をする。 ・ クラスの前で発表をする。 ・ ジェスチャーやアイコンタクトなどを工夫する。 ・ 発表を聞いて自分と同じ点や良い点を探す。 ※ 観察、ワークシート、ICT端末に録画した動画、振り返りシート	○	○	○	・ 聞く目的を明確にする。
---	---	---	---	---	---------------

6 パフォーマンス評価について

（1）パフォーマンス評価の場面

クラスの前で相手に伝わるように工夫しながら自己紹介をする。（第6時）

（2）観点別評価メモの規準

観点	児童の様子
知識 ・ 技能	・ 色や食べ物、スポーツ、野菜、果物の中で好きなものや好きでないものについて、I like～.などを用いて、話すことに慣れ親しんでいる。 ・ 色や食べ物、スポーツ、野菜、果物の中で好きなものや好きでないものについて、日本語との音やリズムの違いに気をつけながら、I like～.などを用いて、話すことに十分慣れ親しんでいる。
思考 ・ 判断 ・ 表現	・ 発表の前後に挨拶をし、色や食べ物、スポーツ、野菜、果物の中で好きなものや好きでないものについて話している。 ・ 発表の前後に挨拶をし、自分の気持ちや様子を伝え、色や食べ物、スポーツ、野菜、果物の中で好きなものや好きでないものについて話している。
主体的に 学習に 取り組む 態度	・ 発表の前後に挨拶をし、色や食べ物、スポーツ、野菜、果物の中で好きなものや好きでないものについて話そうとしている。 ・ 発表の前後に挨拶をし、自分の気持ちや様子を伝え、色や食べ物、スポーツ、野菜、果物の中で好きなものや好きでないものについて話そうとしている。

※ この評価メモの規準は、児童には公表しない。

※ 児童にはCan-Do リストを提示し、自己の学習に生かせるようにする。